

令和2年度

第4回みどり市笠懸地区学校給食提供方式

検討委員会 記録

12月16日(水)

第4回みどり市笠懸地区学校給食提供方式検討委員会記録

令和2年12月16日（水曜日）

会議日程

令和2年12月16日（水曜日）午後3時30分開会

・議題

検討内容の評価について

出席委員（11人）

委員長	堤 洋 樹	副委員長	後 藤 昌 宏
委員	神 戸 美恵子	委員	小 沼 和 彦
委員	阿 藤 恵 子	委員	大 澤 孝 志
委員	金 子 浩 章	委員	須 永 麻 子
委員	橋 場 基	委員	森 田 峯 治
委員	田 村 孝 裕		

欠席委員（1人）

委員 吉 田 努

傍聴（8人）

みどり市民6名、桐生タイムス社、上毛新聞社

説明のため出席した者

教育部長	星 野 和 弘	教育総務課長	金 高 吉 宏
教育総務課長補佐	黒 澤 寿 一	大間々学校給食センター所長	持 箸 圭 二
新設校準備係長			
大間々学校給食センター主査	小 倉 敦 史		

事務局職員出席者

教育総務課長補佐	正 田 一 仁	総務係主査	小 林 洋 行
----------	---------	-------	---------

◎開会・開議

午後 3 時 3 0 分開会・開議

◎事務連絡

[教育総務課長 事務連絡]

○委員：出席されていない委員の方についての評価の点数はどのように扱われるのでしょうか。

○事務局：大澤委員については、遅れていらっしゃるということでございます。吉田委員がご欠席なのですが、事前にご説明させていただきまして、評価をしていただいたものをお預かりさせていただいていますので、全員の方からの評価をいただけるものと思っております。

○委員：採点基準については、細かい項目について、偶数の数字で採点したのですが、最終的に 1 0 段階になった場合も奇数は使えませんか。

○事務局：大きくりの評価項目全体を評価していただくので、採点基準のところで、細かく採点していただいたところとは、多少、表現の仕方が変わっておりまして、全体的に項目を見ていただいた時に、説明を聞いた中で、2 点刻みで点数を入れていただければと思っています。

○委員：皆さんがそれでよろしければ、それで評価します。

○委員長：点数を細かく付けられる方は、良い気はします。2 点刻みなのは、採点基準の分け方のイメージなので、すでにしっかりされているのであればそれでいいです。

○事務局：それでは、点数が細くなるのは構いません。

○委員：整数であればいいですか。

○委員長：整数にしていただければいいですね。

○委員：補足事項についての質問は、いつ受け付けますか。

○委員長：補足というのは、この項目に入っていないという意味の補足ですか。

○委員：いいえ。ここに補足事項というタイトルがありますよね。それについての質問は、今、大丈夫ですか。

○事務局：このあと、事務局からご説明をさせていただきます。

○委員長：私のほうから説明させていただくと、このあと、各項目ごとに補足事項について確認を取らせていただきます。もしかしたら、この会議の中で、この項目はこう表現したほうが良いという話になるかもしれませんが、そこは、その時に言っていただいて、修正するかしないか決めると、判断基準が明確になるはずなので、最終的に点数を付けていただくという流れになります。

◎諸般の報告

○委員長：諸般の報告です。先ほどもありましたが、大澤委員が遅れて出席、吉田委員が欠席ということで進めさせていただきます。

検討委員会の中で会議を公開することになっておりますので、各新聞記者及び一般の傍聴を許可す

るということになっております。

以上で、諸般の報告を終わりますが、傍聴される方は、入室をお願いします。

〔傍聴者 入室〕

○委員長：それでは、次第に従いまして議事を進めさせていただきます。

◎議題

検討内容の評価について

○委員長：2 議題 検討内容の評価についてに入ります。

各委員においては、事前に確認作業をし、点数もある程度付けていただいたという前提で、進めさせていただくのですけれども、このあと、各項目について、補足事項の再確認をさせていただいて、修正が必要であれば、修正をさせていただいた結果を踏まえて、最終的に評価をしていただくという流れになっております。

それでは、まず、評価項目1 栄養バランスに配慮した美味しい給食について、事務局より説明をお願いいたします。

〔事務局 説明〕

○委員長：ありがとうございました。それでは、評価項目1について1分程度で評価を付けていただくということでお願いいたします。何かご意見等があればお願いいたします。

〔少し間あり〕

○委員長：よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

○委員長：評価項目2 安全安心な給食の提供について、事務局より説明をお願いいたします。

〔事務局 説明〕

○委員長：ありがとうございました。ただいまの説明に対して、何かご意見等があればお願いいたします。

○委員：想定される建設面積なのですが、センター方式だと大きく、自校方式だと限られる理由がはっきりしないと、評価しづらいのですが。

○委員長：理由というのは、どういった理由か分からないのですが、今、想定されるというレベルの話なので。

○委員：想定されるわけだから、例えば、建設面積を大きくすることもできるわけですね。

○委員長：もちろんです。しかし、できるかどうかというのは、学校によるので、想定ということでは。

○委員：センターだと、大きくすることができる」と明言されていて、自校方式だと、作る前から広さを制限されるという結果を生んだ裏付けがないと、評価しづらいのですが。

○委員長：例えば、学校の敷地面積が限られているのでということでは。

○委員：学校の敷地面積が限られているのは分かるのですが、敷地面積は広げられるとも思います。この辺の大間々、笠懸地区は土地に余裕があると思うので。

○委員長：そこは、採点のほうで入れていただければ良いかと私は思っています。

○委員：それがはっきりすると、評価しやすいということです。

○事務局：面積につきましては、第3回の会議の中で、笠懸東小学校の例ということで、だいたい職員の駐車場あたりで建設すると、これくらいの面積になるという説明をさせていただいたのがまず1つとなります。

物理的にもっと大きいものが作れるかといいますと、物理的には恐らく可能になります。例えば、校庭が何千㎡という面積がある中で、校庭の半分を潰して、センターぐらいの大きさのものを作るということは、不可能ではないのですけれども、学校には、設置基準というものがあまして、校庭の面積はこれぐらいと決まっております。また、教育をする施設としてのバランスを考えた時に、500食で調理員数が何名となった場合、一般的に考える面積、これでも、今よりも2倍、3倍の面積になっているのですが、教育的な施設のバランスを考えてということと、これが1,000㎡という面積の自校方式を作った場合、調理員が3、4名だと当然足りなくなってきたり、清掃する時間も足りなくなり、6時、7時まで作業をすることになると考えると、建設は不可能ではないのですけれども、一般的に、厨房機器業者、建設業者から推奨されるような面積は、食数に対して、このぐらいの面積になるということで、これが一般的な数字と捉えていただければ良いと考えております。

○委員：ありがとうございます。となると、自校方式でも調理員が4名から8名にふやすこともできるということにはなりますね。

○事務局：ふやすことは、コストを度外視すれば、不可能ではないということです。一般的には2名から8名で、それを例えば20名にした場合には、当然、コストが2倍、3倍になるので、それが現実的かどうかと考えると、少し無理をすれば対応ができるというような考え方になってくるのかと考えております。

○委員：コストは、あとで考えるのですよね。

○委員長：そうです。繰り返して申しわけありませんが、この時点は、まだ確定ではなく、学校によっては当然変わってきますが、一般的には、このくらいで考えられるという数字が入っていますので、気になる方は、そこに評価を入れていただければと思います。ほかの項目も全部そうですので、具体的な話は今後になります。一般的には現時点で考えられる数字だと思っていただければと思います。

ほかに、何かございますか。

〔「なし」の声あり〕

○委員長：それでは、評価項目2 安全安心な給食の提供について、評価をお願いいたします。

〔少し間あり〕

○委員長：よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

○委員長：評価項目3 食物アレルギーの対応について、事務局より説明をお願いいたします。

〔事務局 説明〕

○委員長：ありがとうございました。ただいまの説明に対して、何かご意見等があればお願いいたします。

○委員：アレルギーはいろいろな種類があると思うのですが、センター方式にしろ、自校方式にしろ、いろいろな種類を作る場合に、同じ場所で作っても差し支えないのでしょうか。

例えば、アレルギー専用の部屋を設けたとしても、そこで何種類かの給食を作っても問題ないのでしょうか。

○委員：一般的にアレルギー対応室を作る時は、オール電化で作ることが多いです。それは、今、おっしゃったように、例えば、小麦アレルギーの子がいると、ガスは燃焼炎が出ているので、舞って入ってしまうかもしれないということを考えて、燃焼炎のないオール電化にするというのが多いです。

今、おっしゃったように、同じ部屋に作って入ることがないのかということ懸念して、壁で仕切ったり、同じ部屋の中でも、いろいろな仕切りを作ったり、コーナーを分けるような作りになっていることも多くあります。同じ日に、何種類も入るような献立は、栄養士の先生方は極力作られません。やはり、その注意が考えられるので、例えば、献立を1日ずらせば、1種類で済むようなことも考えられるので、調理上の中でコンタミネーションが発生しないように配慮されているのが多いかと思えます。

○委員長：ほかに、何かございますか。

○委員：アレルギーは、規模が大きくなれば、単純に考えて、6校あれば、1つの学校に1人ずついて、6人いる場合には、自校方式だと対象が1人で、センター方式だと6人になるという考えでいいですね。

○事務局：はい。

○委員長：ほかに、何かございますか。

〔「なし」の声あり〕

○委員長：それでは、評価項目3 食物アレルギーへの対応について、評価をお願いいたします。

〔少し間あり〕

○委員長：よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

○委員長：評価項目4 食育の推進について、事務局より説明をお願いいたします。

〔事務局 説明〕

○委員長：ありがとうございました。ただいまの説明に対して、何かご意見等があればお願いいたします。

〔少し間あり〕

○委員長：よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

○委員長：それでは、評価項目4 食育の推進について、評価をお願いいたします。

〔少し間あり〕

○委員長：よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

○委員長：評価項目5 概算費用等について、事務局より説明をお願いいたします。

〔事務局 説明〕

○委員長：ありがとうございました。ただいまの説明に対して、何かご意見等があればお願いいたします。

○委員：概算費用の予測は、センター方式にしても、自校方式にしても、比較すればセンター方式のほうが安いから、無理はないとは思えるのですが、自校方式の場合は、それは無理なことになるのですか。

それとも、無理ではないことになるのですか。その辺が分かりません。

○事務局：いずれも、当然、コストをかければ建設ができることになりますので、どちらも可能ですが、この5番については、コストに関する項目で比較をするということになりますので、どちらのほうが市にとって負担がないかというところで、判断をしていただければいいかと思います。

例えば、片方を選んだ時に、4億円、5億円という負担増になれば、当然、ほかの事業にも影響がでてくるということで、そういう意味では、無理が生じるというように判断する場合もあるかと思います。

○委員長：この辺は、工夫次第だし、決まってからの話だし、あとで私も言おうと思っていたのですが、やり方はいろいろあるので、具体的な細かい数字については、そこで検討していただくしかないのです。

ただ、一般的には、こういう数字になりそうだというところで、こちらについて評価していただくということをお願いしたいと思います。

○委員：概算のところ、とても考えられないので、選択の棄権はできますか。

○委員長：選択の棄権であれば、私が言うのはどうかと思いますが、同じ点数を入れていただければいいかと思いますが、いかがでしょうか。

ほかに、何かございますか。

〔「なし」の声あり〕

○委員長：それでは、評価項目5 概算費用等について、評価をお願いいたします。

〔少し間あり〕

○委員長：それでは、評価項目の1から5の評価をしていただいたと思いますが、合計もしていただければと思っています。

○事務局：採点していただきましたら、お手元用と提出用がありますので、こちらに出していただくものは、A4の紙のほうに転記していただいて、提出していただければと思います。

〔少し間あり〕

○委員長：それでは、事務局のほうで回収し、集計していただくということになっております。

午後4時23分休憩

○委員長：その間、休憩となりますのでよろしく申し上げます。

午後4時49分再開

○委員長：休憩を解いて会議を再開いたします。

○委員長：集計ができましたので、配布させていただきます。先ほど、事務局から説明がありましたが、結果については、ここでは議論せず、報告書の中できちんと整理させていただいて委員会として方向性を出すということになっております。

集計表について、何かご意見がありましたらお願いいたします。

〔「なし」の声あり〕

○委員長：最後に、将来的な笠懸地区学校給食提供方式の望ましい姿ということで、この委員会のテーマでもありますので、ぜひ、皆さんにご意見や感想をお聞きできればと思っています。

○委員：自校方式、センター方式、いずれにしても、安全と衛生を十分考えていただいて、子供たちに魅力ある美味しい給食を作っていただくということで、決まった方式で、それなりにしっかりと工夫をしていただいて、みどり市の給食を魅力あるものにしていっていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

○委員：子どもが学校給食を提供・供給する立場として、安全安心で美味しい給食というものが理想だと思います。みどり市の児童生徒さんが、大人になっても記憶に残るような美味しい給食を提供できるようなシステムにしていただければと思います。よろしく申し上げます。

○委員：やはり、安全安心、衛生的な給食が一番だと思うのですが、例えば、自校の場合に、こちらでは、匂いという話がでていたのですけれども、やはり自校方式も作り方によっては、作っているところが目で見えるという施設が多くあります。だから、匂いがしなくても、目で見えるというところは、自校は違うかなと思いました。

それから、給食センターは温かい給食を出せるのですけれども、この間の揚げ物のように、揚げ物にきっちり蓋がしてあって、時間がかかってしまって、揚げ物にタレがかかっていたりすると、食べる時に、食味がよくなかったりします。コスト的には、断然、給食センターだと思うのですけれども、やはり、いろいろなところを見ていて、給食センターのいいところも、自校のいいところもあるので、これから、どちらにしても工夫して、安全安心な給食にしていっていただけたらと思います。どうも

ありがとうございました。

○委員：先ほどからでているように、まず、子供たちに一番求められるのは、安全安心な食べ物ということが最優先されると思います。そんな中で、いろいろ今まで討議をしてきた中で、やはり、自校方式にしるセンター方式にしる、それぞれ長所短所があるわけでございます。

そんな中で、やはり、最終的に、どういう判断をしていくのかということになると、やはり、経費、ランニングコストなどが、どうしてもメインになってきてしまうのかなと感じました。いずれにしましても、これは、また市議会のほうで、当然結論をだしていただけるのであろうと思いますので、その辺もしっかり、検討した中で、答えをだしていただければと思います。

○委員：参加させていただいて感じたのは、安全安心という最優先すべきこととコストの問題が、どうバランスを取るのか、10対0で決着をつけていくことができないので、そこをどう線引きをしていくかということは、議論をとおして、いろいろな意見があるということを知ることが必要だということを会議を通じて私も知ることができました。

こういったところに出していただくことは、私も初めてだったのですが、それぞれの分野の専門の方がいらっしゃって、その分野の方々から意見を聞くことが、やはり自分の理解を深めていくことに大変役立つ機会になりました。大変ありがとうございました。

○委員：とても難しい課題をこの4回の会議と点数化することで、一生懸命、結果を導く事務局の力は大変だっただろうと思います。説明もとても細かくしていただいたので、分かりやすく、ありがとうございました。

ただ、笠懸地区の自校方式は、笠懸地区の小学校を出た父兄の今までのこだわりだったと思うので、このこだわりという気持ちは、ずっと大事にしてもらいたいと思います。どうもありがとうございました。

○委員：専門的なこともあって、認識を新たにしたというのもありますけれども、自分自身がずっと笠懸で育って、給食を食して、子供たちも自校方式の中で育ってまいりましたけれども、やはり、それぞれの委員さんがおっしゃっていたように、安全安心、そういったことが一番大切なのだらうと思いました。

ただ、今のコロナの問題ではありませんが、アクセルとブレーキではありませんけれども、コストの問題も考えなければなりませんので、そういったところで、できるだけ丁寧な議論を積み重ねて、一定の結論をださなければということだったのだと思います。大変勉強させていただきました。ありがとうございました。

○委員：まずは安全安心ということ。自校方式もセンター方式も同じ給食ができるのでしたら、なるべく費用がかからないようにつくってもらえるとよいです。笠懸の自校方式を作った時は、まだまだ財政的に余裕のある時代でした。今は、高齢者が多くなり、子供も大事ですが、福祉のほうにも相当お金がかかると思う。自校方式もセンター方式も一長一短ありますが、よいところは残してもらって、安全安心なものを提供できればと思っていますので、よろしくお願いします。ありがとうございました。

た。

○委員：長時間の会議、お疲れ様でした。思い起こせば、1回目の会議が8月下旬のまだ暑い頃でしたが、すっかり気温も下がってしまって、冬本番という形になりました。先日、自分の娘が通う中学校にお邪魔した時に、給食の調理室の脇をとったのですが、とてもいい匂いがしまして、中学校の頃、食堂で食べたことを思い出しました。前にも話したのですが、笠懸地区は、自校方式に誇りを持って、美味しい給食を食べた方たちがたくさんいる地域でございます。

ただ、やはり、先ほど、別の委員さんからもありましたが、施設的にも、自校を直していくという部分が難しいというところも、現実の話なのだと思います。今回の、評価をつけるというか、点数を付けるのが、かなり難しかったというところがあります。差をつけられないというか、採点が、何点か違うぐらいという感じだったのですけれども、これからも変わらないでほしいところは、食材の生産者の方に子供たちが感謝し、美味しい給食を食べて、すくすく元気になっていただけたらと思っています。

今回、自分もいろいろなことを勉強することができたので、この会に参加させていただいて、本当に感謝しています。ありがとうございました。

○委員：今回、この会議に参加させていただきまして、ありがとうございました。私も、本当に皆さんの意見を聞けたこと、あとは、今、皆さんがおっしゃったことのおりなので、また同じことの繰り返しになってしまうのですが、どうか自校方式がいい、センター方式がいいというわけではなく、みどり市の子供たちに、安全で美味しいものをずっと続けて提供して、子供たちがいつでも笑顔でいられるような給食を目指してやっていただければ、今回の本当の市の目的だと思って、私は参加させていただきました。どうもありがとうございました。

○委員長：私のほうから、まとめということもありまして、お話させていただきたいと思っております。皆さん、本当にご苦労されたと思います。判断基準は、私も相当悩みましたが、正解は恐らくないと思っています。

ただ、今まで一般の方が、きちんとこうやって、自校方式とセンター方式、どちらがいいかというのを細かくきちんとみて、どちらかと言われていた方は少ないと思います。この委員会で1番良かったのは、きちんと両方とも検討して、どちらもきちんと対応すれば、変わらないのだと、同じことができるはずなのだ、もっと言うと、できないなら、きちんと工夫をしていくのだということを、きちんと検討するための資料になったと思います。

事前にいただいて確認している段階では、この委員会としては、どちらか結論をださざるを得ないのですが、資料はすごくいいものができていると思っています。これは、多分、ほかの自治体の方も悩まれている部分だと思いますし、もっと言えば、全国的にも、今回の委員会の報告書が、恐らく参考になるのではないかと考えています。使い方や結果は、自治体によって違うかもしれませんが、きちんと検討した結果、どちらかになってしまったということだと思います。

委員会としては、こういう方向でいきますということで、このあと、また議論させていただいて、こ

の資料、報告書等を使って、いろいろなところで、きちんと議論していただきたいと思います。繰り返になりますが、工夫をすればよりいいものができるのではないかと思います。例えば、先ほどからお話しておりますように、コストは工夫次第でどうにでもなるところもあります。今までのとおりだとコストがかかってしまうけれども、もしかしたら、こういうことをやると、安くなるかもしれないなど、もしかしたら、クリアするかもしれないということです。ここを、このあと、しっかり議論していただけたらと思います。市の担当者の話だけでなく、当然、議会や市長も含めて議論していただければ、その答えがどちらかになるか決めていただければと思っております。私からは以上です。

改めて、本日の成果は、報告書としてまとめさせていただいて、教育委員会のほうに提出させていただきます。報告書の内容について、正副委員長のほうでまとめさせていただいたものを皆さんにお諮りし、確認をしていただいて、修正等ありましたら、だしていただくという流れで、まとめさせていただきます。

最後に、何かご意見等があればお願いいたします。

〔「なし」の声あり〕

○委員長：ご意見もないようですので、報告書を作成して、後日、皆さんに配布、確認という手続きで進めさせていただきます。

◎その他

○委員長：続きまして、3 その他に入ります。事務局より説明をお願いいたします。

〔教育総務課長 説明〕

〔教育長 挨拶〕

◎閉 会

○事務局：以上をもって、第4回みどり市笠懸地区学校給食提供方式検討委員会を閉会といたします。
大変ありがとうございました。

午後5時10分閉会